
Poster Presentation

[PS02] ポスター発表(学生 B:コアタイム2)

Sat. Mar 30, 2024 12:30 PM - 1:30 PM Sakura (Student) (Sakura)

[PS02-24] エダナナフシの初期胚休眠を終了する環境条件の実験的解析

○Haruyuki Nakano¹, Keiji Nakamura¹ (1. Okayama Univ. of Sci.)

エダナナフシは、産卵時期に応じて卵期間に一度または二度休眠し、二度休眠する場合はまず初期胚休眠を行う。本研究では、初期胚休眠の終了要因について調べた。25℃長日で採卵した卵に、25℃1週間の後20℃8週間の気温低下を経験させ、休眠を誘導した。その後、0～12週間の低温（10℃）を経験させ、20～30℃で飼育した。そして、DAPI染色を行い、胚発生段階を決定した。20℃から25℃へ直接移すと、4週間で41%の休眠が終了した。一方、10℃を経験させてから25℃へ移すと、4週間では休眠が維持されており、8週間後に休眠が終了した。10℃期間が長くなるほど、25℃に移してからの発生が遅れたことから、10℃には休眠を深める効果があると考えられた。また、休眠卵を25℃一定で飼育すると、20週目までに休眠が終了しなかったことから、休眠終了には気温低下からの気温上昇が必要と考えられた。20℃8週間の気温低下後、20℃で飼育を続けると12週間で46%の休眠終了が確認され、10℃を4または12週間経験後20℃へ移すと、それぞれ40%または91%の休眠終了が確認された。よって、10℃だけではなく20℃でも休眠発育は進むと考えられた。また、20℃では休眠後発育も進むと考えられた。